

建館寄付記と増築寄付記

建館寄付記（書き下し文）



我が大阪は関西の雄府にして、人口百万、財豊かに物殷^{さか}んにして、諸学競い興る。而して図書館の設^{きそ}独り焉を闕く。是に於いて、府庁、建館の議有^{おこ}り。某、自^{しこう}から揣^{ひと}らず、図書館一宇暨^かび図書財本若干資を献じ、もって微力を効さんことを請う。府議して之を納れ、明治三十三年十一月に起工し、三十七年一月に至^{およ}って成れり。夫れ、宇内の交通、五州の貿易経済の術は、商工より急なるは莫^いし。而して大阪は商工の淵藪と称す。斯の館に入る者は、仰いで国家の盛運を思い、俯して我が府の富源を察^こし、之を培^{これ}い、之を養^{つちか}い、諸学理に参^{これ}じ、益功を将来に収めよ。庶幾くは、府庁建館の議に負^{ます}かず、某も亦余榮有^{ます}るに与らんことを。従五位住友吉左衛門識^あす。

【撰】 重野安繹氏 【書】 岡本隆徳氏
【鑄造】 東京美術学校 （現 東京芸術大学）

増築寄付記（書き下し文）



繙^{さき}に、某、本館暨^{それがし}び図書財本を本府に納め、聊^{およ}か効を報^いぜり。其の端末は銅に記して上に扁^かぐる如^{こと}し。事は二十季前^{ねん}に在^あり。今や奎運旺^{さか}んにして、教化行^たわる。入館の士子咽^{のど}を埒^{うず}め、設備窄狭^{さくきょう}を告^たぐ。本府の慶^た為らざるべけんや。是に於いて、府庁の允^た計を得、館の左右各^{おのおの}の新館一宇を増^か築し、規制^{かいちよう}を恢^か張^かす。工は大正十年一月に興^{いた}し、翌年十月に訖^{いた}りて竣^すす。今よりして後、士子閱^い覧^たに便にして、精研洞^ふ究^ふ、昭代休明^ふの化^ふを黼^ふ黻^ふするは、独^{それがし}り某の素願^いにかな^いうのみに非^なずして、其の本府を据^かし、国家を益^けすること、蓋^けし浅鮮^たならざるもの有^あらん。夫れ、府庁建館の議^ごの若^{ごと}きは前に記^こ備^こわれり。茲^こに之^{これ}に及^あばずとい^いふ。従四位勲二等男爵住友吉左衛門識^{しる}す。

【撰】 永山近彰氏 【書】 杉山令吉氏
【鑄造】 東京美術学校（現 東京芸術大学）
* 2つの大銅板額は、第15代住友吉左衛門氏の寄付

目 次

一年の歩み・沿革	1	ビジネス支援サービス・図書館協力業務	7・8
組織・現員表・業務の概要	2	大阪資料・古典籍サービス	8
大阪府立図書館協議会	3	展示貸出	9
平成21年度当初予算・利用状況	3	蔵書	10
敷地・建物・建物平面図	4	主題文庫・目録・貴重書の指定	11・12
閲覧室の状況・各室案内	5	協賛・協力事業	13
ビジネス支援サービス	6		